

プロ講師になろう塾 chance 2024

ジブンならではのセミナー企画でチャンスをつかむ塾

Yell letter 14 期受講者のみなさんへ

今年も残りわずか、いまの努力が実るのは来年 2025 年。新年の「計」の良い下地をつくり、2025 年の始動・活動、活躍・飛躍をめざし、ふみ出しましょう！

2024 年 10 月 5 日

LYK 自業の生い立ち

独立志向はまったく無かった。ただ、妙に安定すると“これではダメだ…”と感じるタチだった。正社員での転職が容易な時代、最終的には外資に入ったが、“組織の一員として働くかぎりは外資もどこも同じだ…”。1990 年のことだった。

その翌年に独立をしたが、伏線は 1988 年夏にあった。人生が動き出す時というのは、偶然が重なる不思議さがある。自業の生い立ちと今に続く物語は Web に綴っているが、こうして続いているのが、不思議。

それもこれも、良き理解者との出会いの賜物。否、「出会い」というより、「先方に見つけてもらった」。『自業のすすめ』（2016 年 4 月）をまとめた時にそう覚った。

彼らが私に何を見てくれたか、ハッキリはわからない。聞き慣れない「パーソナル・アシスタント」に独自の志向性は感じて好感してくれたか…。

ときどき人から「天性のもの」と言ってもらえるコミュニケーション能力が、彼らとの長い関係性の鍵になっているのは間違いない。何より「パーソナル・アシスタント」の基本責務＝「より良い働きかけ」に必須。「天性」がいきるから「自業」にもなり得る。

さて、「良い働きかけ」といえば 10 代に回りの大人たちから授かったもの。「パーソナル・アシスタント」の〈生みの親〉の過去の恩師たち、「見つけてもらった」現在の恩人たちに、恥じない歩み続けること。それが、LYK 自業の鉄則、永遠のテーマ。

自身の創造性を拓き、
自他ともに「簡単にわかるものでない」を覚り、
些細な気づきにも注目して、
何をすべきか考え、実践する。
それがあなたの自業を育てます。

- 一、多様で豊富な知識にふれ
- 二、「コミュニケーション」を深掘りし
- 三、察知（微妙な変化をみてとる、感じとる）に努め

自業の賜物 “広告事件” に始まる「自答」の獲得

1995 年 3 月事務所開設。良心的なオーナーに出不思議なほどトントンと事が運んだが、すぐに想定外のことが起こった。朝日と日経新聞に広告を出す手配をし、代理店との原稿チェックもすんなり進んだのに、直前になって掲載不可の電話。若い女性の担当者も何ら疑わなかった「パーソナル・アシスタント」という業。ただ新聞社側は、初耳で実績がないからダメの判断。広告料を出すのはこちら、これから実績をつくろうとするから広告を出すのに、何を言っているのか。頑として受け入れなかった。代理店の担当者とその上司が慌てて事務所を訪れたが、冷静かつ毅然とその姿勢を貫いた。そこに「本物」をみたのか、上司が新聞社にかけ合い、業界の上部機関の審査対象にするよう働きかけ、最終的には掲載の運びとなった。

この一件で実感し深々と認識したのが、“真に想っていることをやるからハードルを乗り越えられる”。この“広告事件”を序の口に、自分で答をだす旅が始まった。